

月刊 KatsuMagazine

カツマガジン

2011年12月号 vol. 9



CONTENTS

巻頭言「今年最大のトピックは」	1
❶ 2011年、勝間和代の10大ニュース	2
❷ 東日本大震災、その後	8
近況報告：「選択理論」を第一人者から学びましょう	10
編集後記	10
勝間塾レポート（第8回月例会：11月21日実施）	11

今年の最大のトピックは おそらく日本人であればほとんどの人が「東日本大震災」をあげるでしょう。3月11日、内閣府のシンポジウムで、あのひどい検察の証拠でっち上げと戦って、無事無罪を勝ちとり、仕事に復活された村木厚子さんとスピーチを行う予定でした。

村木さんのオープニングスピーチが終わったのが2時46分。そこから私が交代して基調講演で登壇する予定だったのですが、村木さんのエンディングの頃から揺れはじまりました。内閣府の方が登壇を促したのですが、いや、それは違うでしょう、ということで、私はとっさに「みなさん、ここから避難しましょう」と叫びました。ホール中央のシャンデリアがぐらぐら揺れて、今にも落ちそうだったのです。私はイベントの責任者でも何でもないので躊躇しなかったといえはウソになりますが、それでも、それがその時の自分の役割だと感じました。そしてお客さまは無事ホールから退出することができ、そのままシンポジウムも中止です。

東日本大震災からもう9ヶ月。「できる人が、できることを、できる限り」ということで被災地に赴いたり、講演をしたり、銀座の高級クラブ「グレ」をお借りして寄付を集めたり、といったことをしてきました。さまざまな活動を通して、自分1人の無力さを感じる一方で、それでも、みんなが力を合わせることで、政府にできないことも可能になるという実感を得ることができました。

私は、2010年でマスメディアの活動をほぼ終えるつもりで準備してきており、2011年に『デキビジ』、『仕事学のすすめ』など、本当に必要と考えている取り組みを残して、目標をほぼ達成できました。その結果、作ることができた時間は、震災復興へのボランティア、勝間塾、あるいは新しいネットメディア作成などの取り組みに充てることが可能となりました。

「ブームで終わる人と、定番化する人の違いは何か」というのは、私の大テーマの1つですが、今の結論では「定番化する人はいつも新しいことにチャレンジし続け、イノベーションを起こしている」というものです。

私もぜひ、みなさんと一緒にこれからもチャレンジし続けたいと思います。

 勝間 和代



テーマ1 2011年、勝間和代の10大ニュース

勝間の
10大ニュース
第1位

東日本大震災

何といても、2011年の10大ニュースの第1位は、「東日本大震災」です。すべての価値観を疑い、ひっくり返す、大変なできごとでした。みなさんは、震災後にどんなことを考えましたか？

勝間は、「できる人が、できることを、できる限り」という合言葉を掲げました。震災直後は得意のITを活かし情報のハブになることに務め、その後は現地に足を向け、ボランティア活動などにも積極的に参加しています。

2011年勝間の10大ニュースの第1位「東日本大震災」については、「東日本大震災、その後」として、7ページ以降に、震災後、勝間がしてきた活動の一部を報告しています。

勝間の
10大ニュース
第2位

自分マーケティング、第2フェーズ終了、第3フェーズ開始へ

2007年からの書籍デビュー、2009年からのマスコミ活動を経て、2011年は意識的にマスコミ活動を縮小と、少しずつ活動分野をシフトしてきた勝間。マスコミ活動を縮小することで生じた時間や力を、新しい活動に充てた1年となりました。

その効果は、「際立っていた」というのが勝間の感想。「勝間塾の開始（第3位）」、「手帳のリニューアル（第4位）」や、「REAL-JAPANの立ち上げ（第5位）」など、さまざまな活動につながりました。久しぶりの新刊書『まじめの罨』は増刷が決定（第6位）。まもなく出版される『ズルい仕事術』にもご注目ください。

勝間の
10大ニュース
第3位

勝間塾開始

「勝間塾」が目指すもの!! ～勝間和代からのメッセージ～

http://www.katsumaweb.com/modules/logical/index.php?content_id=6

「塾」ということばは、「私設のまなびや（学舎）」を表します。すなわち、勝間塾は、私、勝間和代がこれから説明する「志」に賛同して集まってくださるみなさんに、「学びの場所」を提供するものです。

勝間塾の志とは何か。それは、下記のことばに集約されます。

自分で考える力を養い、一人でも多くの他者に貢献できる人になろう

シンプルですが、このことさえ、自分の行動規範として軸においておけば、毎日がより楽しい方向に自然と進んでいく、そう気づいたからです。

ところが残念ながら、こんな簡単な答えもなぜか、世の中にあるさまざまな雑多な情報の中には埋もれてしまいます。また、マスメディアや商用サービスでは「易行（いぎょう）」を促すようなものばかりが目立ちます。

しかし、いったん、「自分の力で考えて、学ぶ楽しみ」「人に心から喜んでもらえるサービスを提供し、その結果として感謝を得る楽しみ」を知ってしまうと、いかに私たちがとても単純で、かつ、良質な情報や考え方から隔離をされ、ごまかされていたかということに驚きを感じるはずで

この勝間塾では、どうやったら常に良質な情報を見抜き、集めることができ、そして、そこから論理的にものごとを考えることができるようになるのか、自分の得意技をどのように磨き、かつ、足りないところは人に助けてもらえるようになるのか、良質な仲間をどうやって見つけていけばいいのか、ということについての具体的な方法論を提供します。

さらに、マーケティングやファイナンス、人事といったような、ビジネスパーソンに必要なリテラシーについてのコツやツボも提供していきます。

「自分で考えろと言っているのに、人から習うのは変ではないか」と感じる人もいますが、それは、他の人のよりよい知識やこれまでの蓄積を、まずは素直に学び、それ応用して、離れていく、という「守破離」のプロセスです。私たちの時間は有限です。よりよいものを学ぶためには、みんなで協力し合い、過去の人たちの実績を学ぶことが必要不可欠なのです。

明治維新の本質は情報革命にあったことを、ぜひ、みなさんは理解していただきたいと思います。これまでの幕府の意図的な情報コントロールに対し、薩長の下級志士のような、たまたまインテリジェンス活動に従事していた人たちが外国と接している人たちが、「どうも今の状態は、既得権益を守りたい人に有利にできているのではないか」という疑問が生じたところから民主化が始まるわけですね。

現在のITインフラやソーシャルメディアの普及は、これと全く同じことが起きています。すなわち、政府や大手マスコミがコントロールしていた情報に、多くの嘘や恣意的な情報操作が含まれている、しかもそれは、自分たちの地位を守るために行われていたことだということに、一人ひとりが気づいてしまったのです。

だからこそ、私たちはITを上手に活用しながら、学び合い、助け合い、自分たちで、自分たちの目指す仕事や環境、社会を作っていけばいいわけです。

明治維新の頃、上級武士ほど、既存のしがらみに縛られ、新しい時代への対応が遅れました。これからの私たちの幸せを決めるのは、「既存の、すでに時代に合わなくなっている考え方やしがらみから、どこまで早く離れることができるか」だと考えています。

勝間塾では、私は塾長を務めますが、それは役割分担であって、クラス委員長のようなものです。みなさんと一緒に一つひとつ、手を取り合って学んでいながら、塾生がどんどんつながっていき、そして、少しでも多くの気持ちのよい社会を作り、そしてそれを子どもたち、孫たちの世代に残していけること、そのような活動を通して、私たちの毎日が楽しくなること、それが一番の目的であり、私の幸せでもあります。

一緒にぜひ、歴史を、未来を創っていきませんか。ぜひ、勝間塾にご参加ください。毎日、楽しく、わくわくしていきましょう。



(勝間塾夏期講習にて。参加者のみなさんと)

関連情報

- 塾長勝間が自ら語る、勝間塾の魅力（動画）

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=Vc4zIVvWe6U

勝間の
10大ニュース

第4位

手帳リニューアル、 そしてWebのカレンダー・スケジューラー導入 あなたの決めたゴールまで導く手帳

http://www.katsumaweb.com/modules/coach/index.php?content_id=1

手帳といえば、1月は使うけれども、そのうち使わなくなる、典型商品です。

「毎年年初に手帳にいろいろ書き込んでみるが、結局、何もやっていない。」

「具体的に、目標を立てて進捗管理しようとしても、できない。」

それはどうしてかということ、やはり、続く仕組みや、どうやって使うか、ということがわかりにくいからではないでしょうか。具体的には、手帳に書き込む内容は「目的地までの地図」や「家を建てるための設計図」であって、それだけで自分が目的地に到達したり、実際に家が建ったりするわけではないのと同じことです。

そこで、みなさんの手帳と私からのメールをシンクロさせ、理論の理解と実践を同時に行って習慣化していく仕組みを考えました。それが『勝間和代の自分コーチング手帳』です。

ユーザーのみなさんには、手帳の使い方や、日々の励まし、ちょっとした気づきなどを綴ったサポートメールを、毎日配信しています。また、今回Web上にスケジューラー機能が新たに追加され、目標などがコミュニティで共有できるようになりました。コミュニティで仲間と集う嬉しさも、ぜひ体験してください。

関連
情報

- 勝間自らが語る、自分コーチング手帳 説明会（動画）
http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=LJftSnOtZeA
- KatsuMagazine10月号 手帳特集もご覧ください。
http://www.katsumaweb.com/katsumagazine/katsumagazine_201110.pdf

勝間の
10大ニュース

第5位

REAL-JAPAN立ち上げ。政策提言を続けています

言論プラットフォーム「REAL-JAPAN」立ち上げました

<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/04/real-japan-7370.html>

以前から、ブログ上に、さまざまな立場の方や専門家の言論を掲載するプラットフォームを計画していました。それを実現させたのが、「REAL-JAPAN」です。社会提言や政策提言などを、さまざまな執筆陣がアップしています。ぜひ、ご注目ください。

【11月の
新着記事】

- 田中秀臣『宇野常寛×田中秀臣＝文化×経済』
<http://real-japan.org/2011/11/13/655/>
- 田中秀臣『ラーメン、アメリカ、ジャニーズ：速水健朗氏との対談』
<http://real-japan.org/2011/11/07/631/>
- 上念司『野田政権の亡国ジェットストリームアタックを見切った！』
<http://real-japan.org/2011/11/12/647/>
- 上念司×田中秀臣対談『御用一般人を語る』
（上）→ <http://real-japan.org/2011/11/02/625/>
（下）→ <http://real-japan.org/2011/11/03/629/>



ご購入はこちら

勝間和代の

自分コーチング手帳

勝間和代とシンクロ率100% 1日0.2%の改善を仕組み化します

手帳ユーザーを応援するサポートメール（毎朝6時配信）が大好評！（1ヶ月無料体験実施中）

http://www.katsumaweb.com/modules/coach/index.php?content_id=1

手帳ユーザー向けセミナーを定期開催します！
（初回は2012年1月開催予定）

勝間の
10大ニュース

第6位

『まじめの罠』発売、気分は再デビュー

半年ぶりの書き下ろし新刊、光文社新書から発売です

<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/10/post-4902.html>

今年は2009年、2010年に比べ、かなり出版のペースを抑えています。そんな中、さまざまな世の中にある事象を読み解くキーワードとして「まじめの罠」という言葉が頭にこびりついて離れなくなりました。

『まじめの罠』は、与えられた問題設定を疑わず、近視眼的に間違った目標に向かって努力をしようとする、かえって本人や社会に害を及ぼすということをずっと、ずっと、説明した本です。まじめにやっているけれども、どんどん悪い方向に行っているような気がする、そんな人にぜひ読んでもらいたい本です。

なぜまじめなのか、そして、そのまじめは実は保身のための過度なまじめになっていないか、過度なまじめからどうやって脱出できるのか、いろいろなヒントや気づきがあると、とても嬉しいです。また、12月半ばには、『まじめの罠』の実践編ともいえる、『ズルい仕事術』も上梓します。こちらもぜひ読んでください。

関連情報

- 新刊『まじめの罠』増刷決定+Twitterでの感想集めました
<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/10/twitter-c620.html>
<http://togetter.com/li/204630>

勝間の
10大ニュース

第7位

フォトリディング教室を開始しました

神田昌典×勝間和代

フォトリディングフォローアップセミナー開催しました

今年秋からフォトリディング講座を定期的に関開くようにしました。フォトリディングの一番難しいところが「続けること」です。その点を気にした神田昌典さんからお声がけいただき、まずはフォトリディングのレベルアップを目指すみなさんを対象とした、フォローアップセミナーを開催しました。

フォトリディングの効果を十分に発揮できるよう、通常の講座ではお伝えしきれない応用方法などを解説しました。私が神田さんの生徒として受けたいくらのセミナーになりました。



12月
中旬
発売

ズルい仕事術

1,470円

「限られた時間と能力を付加価値のあるアウトプットに効果的につなげる仕事術」を身につけ「ズルい人」になりましょう。



まじめの罠

777円

「まじめの罠」とは、何かに対してまじめに努力した結果、自分や社会を悪い方へ導いてしまうリスクのこと。この罠にはまっていますか？

楽天ブックス 勝間和代特集

<http://books.rakuten.co.jp/event/book/business/katsuma-kazuyo/>

勝間の
10大ニュース

第8位

大型二輪免許取得、そして骨折、そしてDiavel購入

クラッチ操作のあるバイクについて

<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/11/post-4fe0.html>

普通二輪免許をとってから8ヶ月、そして、大型二輪免許をとってから半年が経ちました。バイクネタをたまにTwitterなどでTweetしますと、結局何台持っているんですか、とよく聞かれますので、まとめます。

Ducati Diavel・・・1200ccのバイク（マニュアル）、新車で購入

デルビ ランブラ250i・・・250ccのスクーター（オートマ）、新車で購入

スズキ グラストラッカー・・・250ccのバイク（マニュアル）、中古で購入

Yadea EM26-1000L・・・原付二種の電動スクーター（オートマ）

モデルチェンジに伴う、試乗車もらいもの

もともと例の骨折の原因となったMANA850を買ったのは、私が、半クラッチが苦手な上、緊張のあまりかバネ指を発症したせいです。MANA850で握りゴケして、その後反省してせせとKRSさんに通って、半クラッチ、ブレーキ、Uターン、峠道の走り方、トライカーナなど、山のように練習させていただいたところ、

「あれ、ほとんど緊張せずにクラッチ操作のあるバイクに乗れるようになった」

という日がいつのまにかやってきていました。北海道を往復しましたが、Diavelで一度もこけませんでしたし、都内近郊をグラストラッカーで走っている時も、スムーズに動くようになりました。

そうすると人間不思議なもので、マニュアルクラッチのないスクーターよりも、半クラッチができるバイクのほうが、発進や小回り、Uターンなどでかえて調整が楽にできるようになってきました。

今年の3月、はじめてマニュアルクラッチバイクに乗って、半クラッチの要領がわからずに教習所で倒しまくり、そして免許をとってNinjaがやってきても、最初の1週間は立ちゴケの連続。それがいつの間にか、慣れてすごいもので、あるいは練習の成果か、Uターンも発進・停止も迷うことがなくなりました。

緊張して握っていないせいか、バネ指もほとんどなく、楽しくバイクに乗れるようになりました。

まだまだ初心者のライダーですが、いつかはジム・ロジャーズの『Investment Biker』のように、日本、そして世界をバイクで駆け巡る冒険投資家になるのだという夢を持って、精進する予定です。

関連
情報

- 北海道、十勝からオホーツクへ、2,300kmのロングツーリングの旅日記
その1→ <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/10/2300-1a3e.html>
その2→ <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/10/2300-bc5b.html>
その3→ <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/10/2300-6b55.html>
- 勝間塾ツーリング第1回、無事終了しました
<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/11/post-3deb.html>

勝間の
10大ニュース

第9位

LEAFのアンバサダーになり、電気自動車研究。電動バイクも買いました

LEAFはなぜ（ガソリン車に比べて）気軽に乗れるのか

<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/09/leaf-6319.html>

私は、移動は自転車メインなので、これまで車は家族と一緒に移動する時か、かなりの遠出をする時くらいしか使いませんでした。ところがLEAFがやってきて、これまでだったら電車で行く感じの距離のところとか、雨の日とかに、わりとまめにLEAFを使うような癖ができました。

これまでも乗用車を持っていたので、雨の日などは車を使ってもよかったのですが、使ってきませんでした。では、なぜLEAFだったら乗っていくのかなあ、と思ったのですが、どうも下記の理由のようです。

その1：駐車場ではいつも満充電にしているので、ガソリン満タンの車がいつもある感じで、「あれ、ガソリン足りたっけ」みたいな懸念がないこと。

その2：走っている時に、排気ガスや騒音がないことで、環境や道路近隣の方に対する「申し訳なさ」が薄れること（もちろん、電気や電池を作るのに十分なエネルギーを使っているの、環境への影響はゼロにはなり得ません）。

その3：加速と減速がとにかくスムーズなので、都市部でチョイ乗りをしても、あまり疲れにくいこと。

要は、車に乗ることに対する精神的なコストが下がる、という理由みたいです。これは、乗ってみたいとわからないことですね。

勝間の
10大ニュース

第10位

小型船舶1級免許取得しました

頭の中が、海域交通ルールと、灯火と、汽笛と、エンジンと、海図などでぐるぐるな1日

<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/09/post-8af4.html>

最近、身の周りで小型船舶操縦士免許を取ったり、取りたいという人が多くて、ここ1年くらい、なんとなく「そのうち取ろうかなあ」と感化されていました。

そして手首の骨折も治った頃、スカッシュ仲間会で会食をしているうちに、みんなで一緒に取ろうと大盛り上がり、その勢いで、翌日、仲間の日程を合わせて整え、1級コースに申し込んでしまいました。

前から、日参しているスポーツクラブが船舶も扱っていることを知っていて、スケジュール、アレンジしますよ、と言われていたので、それとピタッと合った、ということもあります。

小型船舶1級は、座学8時間×3日、筆記試験2回、実技研修と試験1日で、取得できることになります。

衝突を避けるためのルール、視界制限状態での灯火の方法、標識の見方、汽笛の鳴らし方、エンジンの仕組みとメンテナンス方法、海図の読み方、干潮・満潮などの気象の仕組み、事故対策などなど、ベテラン講師の方からみっちりと詰め込んでいただきました。

テーマ2 東日本大震災、その後

東日本大震災は、すべての価値観を疑い、ひっくり返す、大変なできごとでした。2011年は一人ひとりが暮らし方を見直し、政府の役割や、地域のあり方を、真剣に考え直した年になりました。勝間も「できる人が、できることを、できる限り」をモットーに、これからも活動を続けていきます。

石巻・女川・気仙沼に3日間、訪問しています

June 16, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/06/3-1922.html>

Chabo! を通じて、印税の20%を定期的に寄付しているJENさんの支援地である、宮城県石巻市、女川町、気仙沼町に2泊3日（6月15～17日）で行きました。



まだ、復興が始まったばかり、ということがよくわかると思います。
これからも定期的に訪問して、支援を続けます。

福島原発から距離40kmにある結婚式場「迎賓館辰巳屋」さんで 震災復興チャリティーを行ってきました。

July 15, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/07/40-4313.html>

7月14、15日と福島県を訪問しました。目的は、原発から40kmの距離にある結婚式場「迎賓館辰巳屋」さんの応援です。辰巳屋の吉田社長から直接メールをいただいたのですが、吉田さんとはそのメールでお話したのが初めてでした。なぜお引き受けしたかという、私にとって、福島は第二の故郷ともいえるところだからです。

私は小学校高学年から20代前半くらいまで、月に1～2回は福島の須賀川市を訪れていました。なぜなら、親の会社の工場が東京と須賀川にあり、両親が頻繁に行き来をしていたほか、兄が須賀川の工場に常駐して家を構えていたためです。春夏秋冬、須賀川とその周辺（白河、郡山、羽鳥湖、磐梯、会津、喜多方など）によく行っていました。スキー・スノーボードが大好きだったこともあって、お正月は東京よりは須賀川で過ごすことが多かったと思います。3月に原発に関する議論が錯綜する中、なぜ私があそこまで福島の風評被害を気にしたかの背景に、このような福島に対する思い入れの強さがありました。

福島に行き、小さい頃から頻繁に訪れた町や風景を見て、人が訪れなくなったことでイベントが中止になる、辰巳屋さんの挙式スケジュールもすべてキャンセルになる、福島ナンバーだと、給油を断られたり、車を傷つけられたりする、などという悲しい話を聞けば聞くほど、声も出なくなってしまいました。

これから何を福島のみなさんのためにできるのか、もっともっと、考えなければいけないと本当に感じました。原発事故により、そしてその後の放射線被害と風評被害により、ここまで、実際に本当に困っている人たちがいる、その事実を強く、強く、受け止めていかなければならないと思います。

第一原発のそばも行ってきました。物資を積んだトラックがひっきりなしに通っていました。

福島は、びっくりするくらい高圧送電線が多いです。これだけの電気を東京にこれまで送ってもらっていたという現実を強く強く受け止め、考え方を抜本から見直したいです。

津波の被災地区も訪問しました。第一原発から30kmちょっと離れたところです。

避難している方が自宅の取り壊しを確認しにいらして、お話をお伺いすることができました。ずっと地元で育った方ですが、それまで津波がきたことなど全くなく、消防団が避難を促さなかったら逃げなかっただろう、ということです。幸い、奥さまと2人で飼犬だけをなんとか連れて逃げる事ができたそうですが、本当に、もうダメかと思ったそうです。そして、近所の方でも少なくともい方がそのまま家に残り、被災してしまったそうです。



まだまだ、何も終わっていない。そして、これまで自分も何もわかっていなかった、ということをはたすら考え、反省した訪問でした。

田村市の隣の三春町には、千年桜という有名なしだれ桜があり、毎年多くの観光客が4月末からゴールデンウィークにかけて訪れるそうです。来年、その桜が咲く頃にもっともっと、すべてが落ち着きを取り戻すよう、微力ですが、自分ができることを考え続けたいと思います。

銀座「グレ」での震災復興イベントのための3日ママ、無事終了しました

October 29, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/10/post-6a66.html>

林真理子さんほか有志の発案で、銀座の高級クラブ「グレ」で、本来、クラブが開店する夜8時より前の2時間、場所と人を1ヶ月お借りして、さまざまな芸能人・文化人が入れ替わりでママを務め、その売上を被災地に寄付をするというイベントを行いました。

私も微力ながら、10月26～28日のママを務めさせていただきました。おかげさまで無事、全員の力で、今回の募金目標金額を、達成することができました（最終日にママを務めた山田美保子さんまでかかりましたが）。

集まったお金は、募金してくださった方すべてに収支報告を送り、かつ、送った先の様子なども視察や写真で報告していきます。具体的には、被災地区の子どもたちの合宿支援をしていたり、流されてしまった漁具や漁網などを支援しているなど、現地で活動しているNPOのみなさまに分けて寄付をする予定になっています。

これが「ママごっこ遊び」と言われなかったためにも、さまざまな形で、継続した支援を行っていきたいと思います。

1ヶ月間、早出をしてくださったさゆりママ、グレのみなさま、お忙しい中、お店まで足を運んでくださったみなさま、本当にありがとうございました。



（グレのさゆりママと）

近況報告 「選択理論」を第一人者から学びましょう

(2011年11月4日、18日のオフィシャルメールマガジンより)

勝間塾は私からの一方通行の学びではなく、仲間とのコラボティブ・ラーニングを基礎にしています。そして、気の合う仲間が見つかることこそが、他のどこでも決して得ることができない、最大の宝物だと考えています。

仲間を見つける最大のチャンスとして、勝間塾では、半年に1回、2日間の泊まり込みの合宿を行っています。合宿では、普段の月例会ではなかなか学びきれない項目を、じっくり時間をかけて、ロールプレイなどを行いながら体感することを目標にしています。

今度の合宿（冬期講習）のテーマは「選択理論」です。選択理論とは心理学の一種で、グラッサー博士が提唱したものです。

私たちは毎日、毎日、何かの行動を選択し続けていますが、その背景には、上質世界という自分たちが目指す姿があり、そこに到達するように行動をしているという考え方です。多くの心理カウンセラーが選択理論を実践で用いているように、非常に実務的で、私たちの考え方や行動指針を上手に整理してくれるものです。

特に私が興味を持ったのは、人とのつきあい方における「致命的な7つの習慣」と、「身につけたい7つの習慣」で、これらを日常化するため、どちらも手帳に挟んで持ち歩いているくらいです。

また、ストレングス・ファインダーは、私たちのポジティブ面の行動パターンを教えてくださいますが、選択理論はどちらかというと、ネガティブ面をどうコントロールするか、ということに役立ちます。

選択理論を外部で学ぶ機会は少ないのですが、今回、勝間塾の冬期講習では、選択理論の第一人者である渡邊奈都子さんをお招きしました。選択理論はとても奥が深いので、ぜひ、渡邊奈都子さんのような、詳しい人に直接聞くことをおすすめします。

【選択理論を知るためのおすすめ本】

『結婚の謎(ミステリー)』

『人生が変わる魔法の言葉 親と子・夫と妻・恋人たちのMiracle Words』

(いずれも、ウィリアム・グラッサー／カーリーン・グラッサー 著・アチーブメント出版)

編集後記

2009年、勝間は憧れの投資家ジム・ロジャーズ氏に会いました。その際、氏の著作『冒険投資家 ジム・ロジャーズ 世界大発見』が好きなこと、そして「私も、バイクや車で世界一周の旅をしながら、さまざまなものを見聞したい。野望です」とブログに書いていました。あれから2年、大型バイクの免許を取得し、野望に一步近づいた、というわけです。2012年、勝間はどんな野望に近づく予定なのでしょう？ そのあたりは来月、お届けできそうです。2011年も1ヶ月を切りました。みなさんもぜひ、早いうちに1年を振り返り、よい2012年をお迎えください。

発行元／株式会社 監査と分析
発行日／2011年12月2日

勝間塾
冬期講習

1泊2日の集中講義で、
「選択理論」を
第一人者から学びましょう。

日時／2011年12月17日(土)～18日(日)
場所／湘南国際村



リモート受講は
12/16まで受け付けています

http://www.katsumaweb.com/modules/logical/index.php?content_id=27

勝間和代と “学び”を共有する学舎 **勝間塾**

2011年11月21日(木)、「勝間塾」の第8回月例会が開催されました。今回のテーマは「マーケティング」。ゲストとして、(株)ロックオン、マーケティングメトリクス研究所所長の中川斉さんをお迎えしました。消費者分析を得意とする中川さんのお話をダイジェストでお届けします。

マーケッターの役割は？ マーケティングとは？

企業活動のゴールは、「どれだけ利益を上げられるか」です。このゴールに向けて、営業担当者は「誰が買ってくれそうか」「売れるポイントは」「いくらでどれくらい売れそうか」「どれだけ売上を上げるか」という視点で商品を手売りとするのに対し、マーケッターは「どんな人が欲しがりそうか」「ニーズの本質は」「どれくらいの価値があるか」「どれだけ市場価値を上げるか」という、より俯瞰した視点で考え、営業担当者のバックアップをします。マーケティングとは、「欲しい人に欲しいものを届けましょう」という企業活動です。つまり、欲しい人や欲しいもの(＝売りたいもの)を具体的に定義し、いつどのくらい売れるのかを検討し、効率的に実現する方法を考え、周りをロジカルに説得していく、という一連の過程をいいます。

基本は、Segmentation、Targeting、Positioning

市場を細分化し、最も儲けられそうなグループに標的を定め、どのような製品を届けるかを規定する Segmentation、Targeting、Positioning が、マーケティングの基本です。欲しい人と、欲しいもの(＝売りたいもの)との接点を探していくわけです。その際に活用するのが SWOT とか、3C などのフレームワークです。気をつけてほしいのが、フレームワークを埋めて満足してしまう人がいますが、これは NG。SWOT を埋めたら、「機会をどう利用できるのか?」「脅威をどう回避できるのか?」などを考えて、戦略の優先順位をつけていくことが重要です。

マーケティング3.0時代へ

マーケティングという考え方が出てきた当初は、「製品ありき」でした(マーケティング1.0時代)。その後、物の供給量が増えてくるにつれ、たとえば移動手段だった車が、家族と楽しむためのツールやステイタスを表すものになる、というようにニーズが多様化。「顧客視点」でマーケティングを考える時代になりました(マーケティング2.0時代)。さらにここ数年は、物があふれ、価値基準が多様化しています。生活者が自ら情報発信できるようになり、情報のコントロールができなくなってきたため、生活者の中に入り、一緒に商品を開発し、価値観を共有するなど、今までとは異なるマーケティング活動をする企業が出てきました。この状況をコトラーは「マーケティング3.0時代に突入した」と言っています。

冬期講習、開催します

12月17日~18日

勝間塾 第9回 月例会

テーマは **経営学**

日時：2011年12月20日(火) 19:00~20:40

場所：直接お知らせします

※リモート受講は、12/19まで受け付けています。



月例会は、インターネット中継でのリアルタイム受講や、ダウンロード資料(オーディオブックとテキスト)での受講も可能です。会員専用のコミュニティもご利用いただけます。

勝間塾へのお申し込みを希望される方は、
こちらの詳細ページをご覧ください。

<http://www.katsumaweb.com/juku.htm>